

カーディフ国立博物館

カーディフ国立博物館には、ウェールズの歴史や考古学の展示に加え、優れた絵画のコレクションもあります。



# 世界の地域から カーディフ（イギリス）



ウェールズミレニアムセンター  
2004年にオープンしたウェールズミレニアムセンターでは、年間を通じて、ダンス、オペラ、ミュージカルなどが上演されています。「Crev Gwir Fel Gwydr O Ffwrnais Awen (ウェールズ語) / In These Stones Horizons Sing (英語)」とくり抜かれた外壁は窓になっています。



カーディフは、英国を構成する4つの国の1つ・ウェールズの首都で、人口約34万人、ロンドンから西に約250kmにあるウェールズ最大の都市です。ブリストル海峡に面した港湾都市で、産業革命以降19世紀には石炭の輸出港として急速に発展しました。工業都市として名を知られる一方で、町の歴史は古く、ローマ時代に基礎が築かれたカーディフ城をはじめとする歴史的な建造物も数多く残っています。一時は世界最大の石炭積出港として栄えたカーディフ港が産業衰退により荒廃しましたが、近年の臨海地区の再開発により、よみがえり、ウェールズの文化の発信地として知られ、世界中から多くの観光客が歴史や文化を知るために訪れるイギリス有数の観光地となっています。

= CLAIRメルマガ読者募集中！ =

観光、物産、交通、IT、環境など海外お役立ち情報満載のメールマガジンを好評配信中  
右の二次元バーコード、または“CLAIRメルマガ”で検索、登録をお願いします





### ウェールズ議会

ウェールズ議会は1997年のウェールズ議会設置に関する住民投票の結果、設置が決定し、建物は建築家リチャード・ロジャースの設計により2006年に完成しました。



### カーディフ市庁舎

エドワード朝時代に建てられたカーディフ市庁舎は、英国の指定建築物に指定されています。



### カーディフ城

カーディフ城の基礎はローマ時代に築かれましたが、建物は19世紀にビュート侯爵が、当時の人気建築家ウィリアム・バージェスの設計により、再建したものです。右端の写真は、城の敷地内にある12角形の要塞「ノーマンキープ」です。



### ピアヘッド・ビルディング

1897年に建設されたピアヘッド・ビルディングと呼ばれる赤レンガの建物は、港の発展で巨万の富を得た大財閥ビュート家（カーディフ城の所有者）の会社の事務所として建てられたものです。

### ミレニアムスタジアム

約7万4,000人を収容できる全天候型のミレニアムスタジアムは、1999年のラグビーワールドカップウェールズ大会のメイン会場として建設され、「ウェールズ代表の聖地」と呼ばれています。2012年のロンドンオリンピックのサッカー会場にもなり、日本代表の試合も行われました。2015年9～10月開催のラグビーワールドカップイングランド大会の会場としても使用されます。



### セント・ファーガンス国立歴史博物館

セント・ファーガンス国立歴史博物館では、屋内展示とともに、ウェールズの各地から移築した数百年前の伝統的な建物が野外展示されており、ウェールズの人々の歴史や文化を体験できます。



ウェールズではウェールズ語が英語と並んで公用語とされています。そのため、駅名の表記もウェールズ語「Caerdydd Canolog」と英語「Cardiff Central」で併記されています。